

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700420
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会
事業所名	グループホームほほえみ (ほほえみ)
所在地	岡山県美作市福本911-1
自己評価作成日	平成 25年 10月 28日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3373700420-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25年 11月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然に恵まれているので、四季を感じながら日々の暮らしができる。 ・職員はみんな明るく、楽しく仕事をしている(チームワークはよいと思う) <p>【これから力を入れていきたい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との関わりを増やす。 ・利用者ができるだけ戸外で出られるよう促す。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広々とした敷地の中、自然環境に恵まれ、季節を感じながら暮らしていくことが出来るグループホームとなっている。同一法人内には、特別養護老人ホームをはじめとした老人福祉サービスが充実している。グループホームを利用している利用者も身体的な状況に応じ、ニーズに合ったサービスを利用できるよう、連携体制が充実しており、利用者や家族にとって安心感のある暮らしに繋がっている。また、利用者の身体機能の低下の予防にも積極的に取り組まれており、利用者にわかりやすい地元の特徴を取り入れた「美作楽じゃ体操」を実施している。職員は介護経験が豊富で、利用者、家族からも信頼を持たれ、質の良いサービスが提供されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(ほほえみ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであることを職員が認識、理解し地域の中でのふれあい、関わりに努める。理念と方針は、よく見える所に掲示している。	理念は事務所の目につく所に掲示されており、共有を図っている。「明るく・楽しく・元氣よく」という施設長のモットーのもと職員は、自分の親を預ける事ができる事業所をめざし、介護に取り組んでいる。職員の年齢層が高く、利用者との関わりが自然で、利用者から教えてもらうことも多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	その時の利用者の状況に応じて出向いていく事が困難な時は地元の方、中学生やボランティアを通してふれあいを深める。誕生日会、レクリエーションにボランティアを取り入れている。	利用者が楽しむことができるように、ボランティアの訪問を受け入れている。また、地域の公民館で開催された敬老会にも参加している。保育園のお遊戯会の交流や、小学校の体験学習も受け入れている。法人全体のお祭りには、地域の方が100人程参加し、利用者も楽しむことが出来た。	美作市に7つのグループホームがあり、それぞれの管理者が集まって話し合いや意見交換をする機会を作られています。事業所の管理者も中心となって参加され、現場の悩みを聞いたり、解決策を話し合ったりと、地域が一体となってサービス向上に取り組まれている姿が見られます。これからも継続していかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される会合や研修にはできるだけ多くの職員が参加するようにしている(管理者も含む)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は偶数月に行うようにしている。議題は事前に決め、出席者の意見や指導を参考にして現場に取り入れるようにしている。	定期的開催している。民生委員・副会長・社会福祉に関わった見識者・家族会・地域包括センター・市の高齢福祉課等の参加がある。認知症についての勉強会を実施したり、事業所をより深く知ってもらうように取り組んでいる。	地域包括支援センターからの提案により「美作楽じゃ体操」という地域で考えられた体操を取り入れています。高齢の方にも分かりやすく、取り組みやすい内容で、利用者も楽しんでいる様子が見られました。これからもぜひ続けていってください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には市町村の出席を頂き、助言や指導を参考にして対応している。わからない事は直接相談に行く。	制度上の質問などは、管理者が自ら窓口に行き、直接話をすることで顔なじみになっており、関係も良好である。生活保護を利用されている利用者もいるため、福祉事務所からの訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、他の入り口も施錠はしていない。帰宅願望から徘徊のある利用者様については、職員と一緒に散歩などする(利用者が納得するまで)	日中は玄関の施錠はしていない。ユニット間もウッドデッキを通して自由に行き来できる。今現在、身体拘束の対象となる人はいない。法人としてのマニュアルもあり、職員は年に4回勉強会に参加している。外部からの講師を招いての研修も実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の認識は職員全員認識しており、施設内での研修、勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在はこの制度が必要とされている方はおられないが研修等には管理者職員問わず出席するようにしている。復命書にて認識をはかる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明の際、契約書重要事項説明書については、充分話をしているのでご家族は理解して下さっていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	すでに活動している家族の会の協力で家族の輪を広げ、要望や意見を聞き、職員会議等で検討し、実行、実施している。	家族会で挙げた希望や要望、苦情などを話し合い、運営に反映させている。家族からGHでの”参観日”をしてみてもという提案があり、来年度の実施に向けて計画を立てている。家族からは日頃からいろいろな協力の申し出があり、積極的に行事にも参加してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎日の申し送りで話し合い、意見交換している。	月に1回、職員会議を実施している。利用者のケアについての話が多い。利用者への対応について気が付いたことはメモをし、その都度話し合いをしている。現場の様子や職員の意見は管理者が施設長へ報告をしている。有休休暇を活用し、リフレッシュできるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格必要と思われる職員については研修に出席するように進めている。時々不意打ちにストレス調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士が何でも話せる状況をつくり、又コミュニケーションがとりやすい状況作りに配慮している。日常の日々の中で苦情、不満を聞き出す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネが出席しての研修や会合にはできるだけ参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申し込みを頂いた利用者の方には、事前に面接を行い家族の思い、ご本人の生活状態、心身の状態などを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対してご本人、ご家族が希望するものは何かを聞き信頼関係をつくることに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応を求められる方についてはケアマネージャー、また、他の事業所と連携をとり、柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時その時のご本人の状況や状態によりさりげなく見守りをするケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来所の際は、居室又はホールでご本人とゆっくり話す時間をすごしていただく。行事への参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々買い物を兼ねて実家の近くにドライブに行ったり、地区の方が来られる日にデイサービスに遊びに行ったりしている。帰宅願望があるときは出かける。	希望があれば実家の様子を見に行ったり、外出時は実家付近に行ったりもする。家族の協力もあり、一緒に外出もしている。買い物の希望にも対応している。知人が同法人のデイサービスを利用しているため、時には職員と一緒に会いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけソファでゆっくりとくつろいで頂く時間をつくる。相性の悪い方については、席を変えたり座る位置を考慮する。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方にも行事の案内状を出したり、時には立ち寄っていただけるように声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり話をしたり関わりをもつ時間をつくるようにしている。昔を思い出していただき、その当時の話しなどを聞き出すような状況を作る。	何かをしなくてはいけないとかではなく、本人のペースで好きなようにゆったりと過ごしてもらおうよう心掛けている。職員は日々の生活の中で本音を聞き出せるよう、気にかけて配慮している。意思の表現が難しい利用者には、マンツーマンで寄り添って話を聞く機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを大切に思っている気持ちを伝え、安心して生活していただけるように配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムや状況を考えながら、入浴や昼間の臥床などを取り入れる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングを行い利用者主体のケアを考えている。職員には担当者会議で徹底している。家族には面会時に報告をしている。	ケアマネジャーが中心となってプランを作成している。利用者の様子について気づいたことやケアについての意見などを月1回の職員会議で話し合い、プランに反映させている。また、月1回のモニタリングや週2回の訪問看護からの意見も参考にしている。家族からの意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例の職員会議や毎日の申し送りを通して、利用者の変化や状況などの共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに促されない柔軟な支援やサービスをし多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との意見交換会を行う。訪問理容(地域の業者)を活用している。第三者委員会を立ち上げ、意見を聞く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、利用者全員定期受診を行う。かかりつけ医とは、常に連携を取り、状態に応じて(緊急を含む)受診している。	かかりつけ医への受診支援を月1回実施し、健康や服薬を管理している。協力医は開業医であるが、24時間の対応、緊急時には往診もしてもらうことができる。歯科や内科以外の受診は基本として家族にお願いしているが、場合によっては職員が行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回(月、木)訪問看護を取り入れている。事業所内の看護師なのですぐに対応できるので心強いところがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は症状等について家族と話し合い情報の交換をしながら一日おきに見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての方針は事前に家族とよく話し合いをし、家族の要望や意志を十分に把握した上でターミナルの希望があれば応じる。	現在まで終末期支援の実施はしていない。同法人に特別養護老人ホームなどの福祉サービスが充実しており、利用開始時に申込みをしている場合が多い。今後、利用者や家族から希望があれば実施も検討している。法人内では看取りに関する研修もあり、職員も参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が参加する勉強会を実施している。テーマを変えて3ヶ月に一度実施している。(実技講習を含む)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年に3回を目標に実施している。他の部署での消火訓練にも参加する。	避難訓練は事業所独自で実施しているが、昼間の想定のみとなっている。特養の職員の手伝いもある。美作市の消防署の協力もあり消火訓練も実施、法人の防災マニュアルも作成されている。水害時には特養の2階に避難することになっている。消防団との連絡体制もできている。	緊急時連絡網の使用シュミレーションを実施されるなど防災についての意識の高さを感じます。残念なのは、避難訓練が昼間想定のみとなっていること。今後は夜間想定の実施も加えて頂くことをお願いいたします。また、地域の方に協力してもらえよう検討中とのこと、これからの期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ介助、入浴介助の際は言葉がけに充分配慮している。(ご本人の意思を尊重する)	トイレ介助や入浴の声掛けなど、十分な配慮をしている。声掛けは、ケースによって親しみや、優しさを出すために、方言も使っている。法人での接遇マナーの研修会もあり、勉強の機会もある。職員会議を利用し、接遇や声掛けなどについての注意点など管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日の衣類については、ご本人の意志や希望を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が一番良い状態で生活していただけるように配慮している。自分の好きなことをしていただく。何をしたいのか分からない方への声かけをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分が選んだ衣服を身につけるようにしている。行事の時など化粧したり派手な服を着たりしておしゃれをしていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	H25年1月より(株)ナリコマエンタープライズから3日に一度、食事が届く。利用者の方も慣れられて皆さん、毎回完食される。	食事は業者に委託している。味見をして事業所で手直して提供することもある。主食は事業所で炊いている。利用者の重度化が進み、調理に関わってもらうことは難しくなっているが、お膳ふき等、できる事は参加してもらっている。おやつは手作りの物を提供している。	以前は食事は3食手作りで出していました。法人の方針で業者の利用になっています。利用者からは、以前の方が美味しかったとの意見がありました。行事の時や旬の食材を使った料理など利用者の希望に添った食事が提供できる機会を増やして頂くことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方のメニューであるため、栄養面については心配していない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいはかかさないように気をつける。うがいの出来にくい方は、ガーゼなどで口腔ケアをする。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導、排泄介助の声かけには、十分に配慮している。自尊心を傷つけないように気をつけている。	個人の排泄チェック表を作り、個々に合わせてトイレ誘導の声かけをしている。できるだけトイレで排泄できるよう心掛けている。退院後、おしめを使用していた利用者が職員の声かけや支援によってトイレでの排泄ができるようになった例もある。夜間はポータブルトイレを使う利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症をもっておられる方についてはかかりつけ医と相談しながら対応している。一時的な便秘の方には食べ物等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりに声かけをしてできるだけ多くの方に入っていただく。羞恥心・恐怖感には充分注意する。	基本、特浴は週に2回、一般浴は週に3～4回実施している。本人からの希望があれば、毎日入浴を実施する場合もある。マンツーマンの介助によりゆったりとしたコミュニケーションの時間として活用している。季節でゆず湯にしたり、ボランティアの好意で、近くの湯郷温泉のお湯を運んでもらったりすることもあり、温泉を楽しむこともできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日離床が無理な方については夜間の就寝に差し支えない時間にする。昼夜逆転に気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをつくり職員が内容を把握できるようにしている。体調の変化がみられる時はかかりつけ医にすぐ相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが楽しみながらできるように声かけをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は時々、利用者と一緒にに行くようにしている。金融機関など、少しドライブをしたりする。	季節を感じてもらおうような外出を企画したり、天気のいい日には近隣を散歩をしたりしている。ユニット間にあるウッドデッキで体操をしたり、おやつを食べたりするなど外気に触れる機会を多く作っている。利用者の希望に添って買い物にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして現金を預かっているの、その中からホーム内でバイキング形式で好きなものを買う。買い物に出た時は一品だけ買う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から”家人に電話をしてほしい”との希望があった時はその場です。手紙のやりとりは、自由にしている。(現在は少なくなっている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内、ホール内を明るい雰囲気にするように配慮している。壁画などでは、季節感を取り入れる。レクリエーションの中で時期の話題を取り入れる。	利用者が季節を感じる事ができるように、季節に合った独創的な壁画を利用者と職員が一緒に作っている。広々としたウッドデッキがあり、利用者がお茶を飲んだり、ゲームを楽しんだりもしている。リビングはゆったりとした作りで、和紙の照明器具も落ち着いた雰囲気があり、利用者は心穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、又はソファで好きなようにくつろいでいただける雰囲気づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には馴染みのものなどを持ってきていただいている。寝具、シーツなどにこだわりのある方については希望を尊重している。	居室は広く、掃出し窓があり明るい。また、緊急時には避難もしやすい造りである。ベット、タンクが備え付けとなっているが、自宅で使っていた馴染みの物を持ってくることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、本人がわかりやすい場所に物を置くようにしている。危険につながるもの以外は自由に使えるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700420
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会
事業所名	グループホームほほえみ (ひだまり)
所在地	岡山県美作市福本911-1
自己評価作成日	平成 25年 10月 28日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=3373700420-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25年 11月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果(ひだまり)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであることを職員が認識、理解し地域の中でのふれあい、関わりに努める。理念と方針は、よく見える所に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	その時の利用者の状況に応じて出向いていく事が困難な時は地元の方、中学生やボランティアを通してふれあいを深める。誕生日会、レクリエーションにボランティアを取り入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される会合や研修にはできるだけ多くの職員が参加するようにしている(管理者も含む)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は偶数月に行うようにしている。議題は事前に決め、出席者の意見や指導を参考にして現場に取り入れるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には市町村の出席を頂き、助言や指導を参考にして対応している。わからない事は市町村に直接聞きに行く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、他の入り口も施錠はしていない。帰宅願望から徘徊のある利用者様については、職員と一緒に散歩などする(利用者が納得するまで)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の認識は職員全員認識しており、施設内での研修、勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在はこの制度が必要とされている方はおられないが研修等には管理者職員問わず出席するようにしている。復命書にて認識をはかる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明の際、契約書重要事項説明書については、充分話をしているのでご家族は理解して下さっていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	すでに活動している家族の会の協力で家族の輪を広げ、要望や意見を聞き、職員会議等で検討し、実行、実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎日の申し送りで話し合い、意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格必要と思われる職員については研修に出席するように進めている。時々不意打ちにストレス調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士が何でも話せる状況をつくり、又コミュニケーションがとりやすい状況作りに配慮している。日常の日々の中で苦情、不満を聞き出す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネが出席しての研修や会合にはできるだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申し込みを頂いた利用者の方には、事前に面接を行い家族の思い、ご本人の生活状態、心身の状態などを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対してご本人、ご家族が希望するものは何かを聞き信頼関係をつくることに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応を求められる方についてはケアマネージャー、また、他の事業所と連携を取り、柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時その時のご本人の状況や状態によりさりげなく見守りをするケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来所の際は、居室又はホールでご本人とゆっくり話す時間をすごしていただく。行事への参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々買い物兼ねて実家の近くにドライブに行ったり、地区の方が来られる日にデイサービスに遊びに行ったりしている。帰宅願望があるときは出かける。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけソファでゆっくりとくつろいで頂く時間をつくる。相性の悪い方については、席を変えたり座る位置を考慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方にも行事の案内状を出したり、時には立ち寄っていただけるように声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくり話をしたり関わりをもつ時間をつくるようにしている。昔を思い出していただき、その当時の話しなどを聞き出すような状況を作る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを大切に思っている気持ちを伝え、安心して生活していただけるように配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムや状況を考えながら、入浴や昼間の臥床などを取り入れる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングを行い利用者主体のケアを考えている。職員には担当者会議で徹底している。家族には面会時に報告をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例の職員会議や毎日の申し送りを通して、利用者の変化や状況などの共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに促されない柔軟な支援やサービスをし多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との意見交換会を行う。訪問理容(地域の業者)を活用している。第三者委員会を立ち上げ、意見を聞く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、利用者全員定期受診を行う。かかりつけ医とは、常に連携を取り、状態に応じて(緊急を含む)受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回(月、木)訪問看護を取り入れている。事業所内の看護師なのですぐに対応できるので心強いところがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は症状等について家族と話し合い情報の交換をしながら一日おきに見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての方針は事前に家族とよく話し合いをし、家族の要望や意志を十分に把握した上でターミナルの希望があれば応じる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が参加する勉強会を実施している。テーマを変えて3ヶ月に一度実施している。(実技講習を含む)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年に3回を目標に実施している。他の部署での消火訓練にも参加する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ介助、入浴介助の際は言葉がけに充分配慮している。(ご本人の意思を尊重する)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日の衣類については、ご本人の意志や希望を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が一番良い状態で生活していただけるように配慮している。自分の好きなことをしていただく。何をしたいのか分からない方への配慮をする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分が選んだ衣服を身につけるようにしている。行事の時など化粧したり派手な服を着たりしておしゃれをしていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	H25年1月より(株)ナリコマエンタープライズから3日に一度、食事が届く。利用者の方も慣れられて皆さん、毎回完食される。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の方のメニューであるため、栄養面については心配していない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいはかかさないように気をつける。うがいの出来にくい方は、ガーゼなどで口腔ケアをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導、排泄介助の声かけには、十分に配慮している。自尊心を傷つけないように気をつけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症をもっておられる方についてはかかりつけ医と相談しながら対応している。一時的な便秘の方には食べ物等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりに声かけをしてできるだけ多くの方に入っていたり。羞恥心・恐怖感には充分注意する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日離床が無理な方については夜間の就寝に差し支えない時間にする。昼夜逆転に気をつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをつくり職員が内容を把握できるようにしている。体調の変化がみられる時はかかりつけ医にすぐ相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが楽しみながらできるように声かけをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は時々、利用者と一緒にいくようにしている。金融機関など、少しドライブをしたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして現金を預かっているため、その中からホーム内でバイキング形式で好きなものを買う。買い物に出た時は一品だけ買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から”家人に電話をしてほしい”との希望があった時はその場です。手紙のやりとりは、自由にしている。(現在は少なくなっている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内、ホール内を明るい雰囲気にするように配慮している。壁画などでは、季節感を取り入れる。レクリエーションの中で時期の話題を取り入れる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、又はソファで好きなようにくつろいでいただける雰囲気づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には馴染みのものなどを持ってきていただいている。寝具、シーツなどにこだわりのある方については希望を尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、本人がわかりやすい場所に物を置くようにしている。危険につながるもの以外は自由に使えるようにしている。		